

特集

症候からアプローチする 救急医のための感染症診療

数多の病原微生物による感染症が世界各地で発生している現在、その分布は病原微生物の特性や地域環境、人や動物の移動も関連して、局所にとどまるものから広範囲に分布するものまでさまざまです。このため、医師が輸入感染症に遭遇する機会は限定的であり、それゆえに苦手意識をもっている者も多いでしょう。

しかし、救急医療の現場では、そのような輸入感染症の患者が突如としてやってくる可能性があります。また、全世界でパンデミックを起こすような感染症の対応においても、救急医療の現場がその最前線となることは明らかです。その点において、まさに今現在、全世界で猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への対応から得られた教訓は数多くあり、未知の感染症に対する治療の困難さ、想定どおりにいかず逼迫する医療体制、リソースの不足など、救急医療における感染症診療のさまざまな問題に直面した/直面している救急医も数多いと思われます。

一方で、この避けては通れない感染症、とくに輸入感染症に対応するにあたって、救急医が感染症専門医と同等の知識を常に備えておくことは現実的ではありません。そこで今号では「救急医のための感染症診療」と題し、救急医が実践すべき感染症診療として最低限おさえておくべきポイントに重点を置いた特集を企画しました。感染症診療の総論的なノウハウから、救急現場でとくに重要となるであろう症候論的な診断・初期対応のアプローチ、そして感染症対応の裏付けとなる最低限の知見・知識について、ご専門・エキスパートの先生方からご教授いただいております。

COVID-19への対応に追われる今こそ、臨床の最前線から感染症へのより適切なアプローチを構築していく。本特集がそのための一助となることを期待しております。